

第13回ねごろ医用実学研究会講演会（2023/03/11実施）

番号	在校生の感想
1	企業への関心が高まりました。
2	わかりやすかった。
3	企業の人事部長などと呼んでいただけると助かります。企業講演（日機装）と特別講演Ⅰ（雁瀬先生）は特に勉強になりました。
4	将来役に立つ内容を受講できたと感じました。
5	今回は主に医療の安全確保についての話題でしたので、今後はそれらを駆使した新しい医療形態について聞かせていただきたいです。素敵な経験をありがとうございました。
6	今後に活かそうと思った
7	チーム医療で医療過失が起きた際の責任・親族の賠償請求等は誰にかかるのか気になりました。
8	将来に役に立つ講演を聞くことができてよかった。この講演を今後に役立てることができるよう頑張っていきたい。
9	医療安全について、過去の失敗から学ぶのではなく、失敗を防ぐことができたあるいは成功したものの中からどこがよかったのかを見つけ出し次以降に生かしてゆくという形をとっていることを初めて知った。実際にヒヤリハットや事故につながった報告が隠されずに出ていと言うことをおっしゃっていたが、それが実際にどのように生かされているのかももっと詳しく聞いてみたいと思った。
10	今回は臨床工学技士の可能性や現場での危険性について知ることができました。現場では医師しかできないことが多くあると学んでいます。臨床工学技士がどのような事ができるのか、またどのような失敗例があるのか細かく学んで自分の将来についてより深く考えていきたいと思っています。
11	臨床工学技士の職域拡大と今後の展望について聞きたいです。
12	行政における臨床工学技士の役割などがもしあれば知りたい。
13	臨床工学技士として、病院だけでなく、企業でも活躍の場がたくさんあることが分かった。今は企業就職で考えているので、今回のご講演を参考にしつつ、色々考えていこうと思った。また、1番印象に残っているのは、臓器移植の話だった。普段の会話の中ではなかなか話す機会がないことだけど、これをきっかけに家族とも1度は話しておかなければならないと思った。
14	企業目線のお話と臨床目線のお話両方を聞くことで、双方の観点を理解することができ、お互いの意見が医療において大切だと感じました。
15	安全管理の講演では臨床と企業の両方の活動を知り、臨床工学技士の活動を想像することができました。 臓器提供についての講演は自分が詳しく知らなかったためとても勉強になりました。ありがとうございました。
16	臓器移植の意思表示について、家族と話し合っ決めてたいと思います。
17	専門的な話ばかりではなく、私たちが日常的に感じている感情や体験を基にお話をされていてとてもわかりやすかったです。
18	今回の話では、医療安全ということについて理解することができ、そこにこれから関わっていくことについてよく考えるきっかけになった。
19	本日はこのような機会を設けていただきありがとうございました。 ・山下先生のお話では、インシデントレポートはなるべく提出件数が少ない方が良いと思っており、それは自分の考え方が医療事故はヒューマンエラーであり、気をつければ全て防ぐことができるといった古い考え方が頭にあったのだと思います。将来、臨床で働くことを想定すると、ミスは必ず起こってしまうものであり、これをなくす為にもインシデントレポートをしっかりと書き、未然に防げる予防策を増やし、事故となる前に防ぐことが大切であると感じました。また、医療従事者として自らの身を守る為にも安全を確保することは大切であると思いました。 ・奥村先生の話からは、医療機器の安全確保についてのメーカーからの立場について知ることができました。在宅で血液透析ができるようになってきている今日、医療従事者がいなくても使用できる機器や自動で制御できる機器が増えてきている中で、不具合が起こらないようになっていとは思いますが、万が一起こった場合の責任問題についても考えていく必要があり、法整備もする必要があると感じました。 ・雁瀬先生のお話では、臓器移植について、自分の身内が提供者となるのは根拠はありませんが、何か悲しい思いがあるので否定的な考え方でした。しかし、臓器提供することで臓器が機能することで生き続けるという考え方はとてもポジティブでいい考え方だと感じました。なので、この講演を通して臓器移植に肯定的な考え方になりました。 ・小松先生のお話では、ミスなどを報告することができるチームがとても良いチームであり、山下さんのお話にも繋がりますが、ミスを減らすことも大切ですが、ミスが起こった時にどう対応するか、対応までにどれだけ時間を短縮できるかがとても大切であることがわかりました。もし集団でリーダーとなる状況があれば、言いやすい環境を作れるように心がけたいと思います。 貴重な機会を設けていただきありがとうございました。
20	大学生の時にこのような貴重なお話を聞くことが出来てとても良かったと思います。大学生のうちにできることはやっていきたいと思っています。
21	医療機器を扱う上で、常に医療事故の危険と隣合わせであることを改めて認識できました。医療関係者の話だけでなく、メーカーの方の話も聞けてとても良かったです。
22	医療安全に関して、時代と共に考えることも変わっていき、色々な課題も見えてくると感じました。
23	臨床工学士の職域拡大の現状についてよく理解することができた。臨床工学技士の現状の課題などについて聞きたいです。
24	医療の現場の環境などが昔に比べて、今どうなっているのかという話題がよく入っておりよく伝わった。
25	特定の職種だけでなく病院全体や外部の病院それを含みチームなんだと今回学びました。これからの学生生活は他の外部の方達と円滑なやり取りをするために今からいろんな人とコミュニケーションを取りたいと思いました。
26	医療技術などが上がるにつれて危険性が高まっているというのは、最初聞いたときは疑問に思ったが、話を聞いてくにつれて医療現場の現状がよく知れて勉強になった
27	普段聞くことのできない病院以外の医療メーカーや臓器移植についてなど新しく学ぶことが多かった講演会でした。臨床工学技士といえば病院勤務というイメージがまだ強くあったがこの講演会を通じてより幅広い働き方があるということに気付かされました。今後も病院以外の働き方について知りたいです。
28	ためになりました。

第13回ねごろ医用実学研究会講演会（2023/03/11実施）

番号	在校生の感想
29	普段聞かないような話を聞けて良い経験になりました。これからの学生生活に活かしていきたいです。
30	私が1番興味を惹かれたのは、雁瀬先生の移植の話である。私個人、自分の死後は提供したいと考えている反面、自分の親や兄弟が移植すると聞くと反対するだろう。いざその時になると、その折り合いをつけるのが難しいだろう。
31	講義では聞くことがあまりない話を聞くと心がき良い機会でした。病院就職を考えていますが、企業様の話を聞いて就職についてもう一度幅広く考えようと思いました。
32	他職種の方からの貴重な講演で、臨床工学技士単体ではなく、他職種との連携を考える機会となった。
33	職域拡大の話についてもっと具体的に聞きたいなと思いました。
34	私が一番興味を持った講演は企業講演だった。企業では働く臨床工学技士の方の話とても貴重なお話だった。日機装株式会社では企画製造から販売まで行っており色々なところで臨床工学技士が働いているのだと思った。
35	医療事故とはあってはならないものとかわかっていても起こっているのが事実です。私たち医用工学科の学生は将来病院で働き、人の生命に携わることになるので最良の注意をはらっていききたいと思いました。
36	臨床工学技士を目指すものとして、非常に有意義な時間を過ごすことができた。
37	雁瀬さんのテーマが特に興味深かった。家に帰ったら家族で臓器提供について話し合いたいと思った。
38	医療現場やさまざまな分野において、失敗から学ぶことがこれからも重要だと思っていましたが、成功から学ぶことがこれから重要だということがわかりました。
39	普段の専門的な内容以外にも、一組織としての役割や、協力することの大切さや、リスクマネジメント等の別の視点での講義が多く、興味深かったです。
40	とても貴重な講演会だったと思います。企業で働くか病院で働くかをまだ悩んでいるので、どちら側からの医療安全に対する意見を聞けて良かったです。個人的には企業で働くことに魅力を感じていますが、改めてどちらもやはり魅力的に感じました。
41	臓器移植について詳しく話を聞いたことがなかったので、初めて聞く話ばかりだった。改めて意思表示をきちんとしておくべきだと思った。
42	内容は少し難しく感じたが、大学の授業で習ったことのあることについての話もあったので、良い復習になりかつ、新しい知識を得ることもできたと感じる。
43	今まで考えたことのなかったテーマについてご講演いただいたので、今後もこのようなイベントを開いて欲しいです。
44	臓器移植についての意思表示をしていなかったの、家族と話し合い、意思表示をすべきだと思いました。
45	様々なお話を聞くことができ、非常に有意義な時間となりました。
46	雁瀬先生のお話はとても身近で興味深かった。家族や大切な人の死を考えた時、臓器移植をするかしないかという選択は自分一人で出来るものではなく、本人の意思を知っておくことはかなり大切なことであると改めて実感した。また家族と話し合いをしたいと思った。
47	これからの臨床工学技士の立ち位置についてよく考え、理解出来る機会であり、大変為になったと思う。
48	企業の行っている活動や臨床工学技士がどのような分野で活躍しているかを知ることができて貴重なお話が聞けてとても良かったです。企業の人事部の方がどのような人材を求めているか、大学院と大学の卒業生を雇う場合、どのようなメリット・デメリットがあるか、また、病院からの企業へ転職される方の重要性を聞きたいです。
49	医療安全や医療機器開発においての臨床工学技士の活躍、臓器提供の意思表示について、リーダーシップの取り方など今後に生かしたい内容の講演ばかりだったので、聞けてとてもためになりました。
50	臨床工学技士は患者だけでなく医療従事者も助ける仕事だとわかりました。
51	山下先生の講演を聞いた後に、山本先生が患者さんの取り違いを防ぐために指紋認証などで確認したりと、山下先生に提案されているのを見てその発想はなかったなと思いました。講演を聞いてすぐに思いつくのは自分には難しかったので柔軟性が足りないなというのと勉強不足を実感しました。また、奥村先生の講演を聞いているときに、日本の人工透析装置が85カ国で販売されていると聞き、国内のシェア率も高い上に海外でも使用されていることに驚きました。
52	臓器提供の話が1番印象に残りました。運転免許証、保険証の裏に臓器提供の意思を示す場所があることは知っていたけれど、自分自身の意見が定まっていないので、記入していません。今回講義をきいて記入する必要があるのだと思いました。記入することによって、自分自身の意見を反映させることで、家族に選択させてしまう負担も減るのだと感じました。
53	自分が将来目標としている職種などの話も聴けて理解が深まりました。
54	山下先生と小松先生のお二人の講演に共通して出てきた「safety2:うまく行ったことから学ぶことで医療事故を減らす」という新しい現場での取り組みについて知ることができて良かったです。しかし、現在では失敗から学ぶsafety1が主な解決策であり、safety2を実行するのが難しいという現状であるというのを聞き、簡単な問題ではないことを確認しました。私たちが医療の現場に出た時にsafety2を実現することができれば、医療事故は減ると思うので、この問題について真摯に向き合い解決できるよう努めたいと思いました。
55	臓器移植コーディネーターに臨床工学技士の資格を持っている人がいることは初めて知りました。改めて、臨床工学技士の仕事は幅広い分野で活躍していることがわかりました。また、リーダーシップがとても必要であることがわかりました。今後の講演会で、今働いている臨床工学技士の方の業務や病院内で起きていることなどを聞きたいです。
56	大学の講義では聞けない貴重なお話が聴けて、大変有意義な講演でした。
57	臨床工学技士となった後の選択肢を増やす良い機会となった。

第13回ねごろ医用実学研究会講演会（2023/03/11実施）

番号	在校生の感想
58	今日の講演を聴き、医療安全は、医療事故から学んだことを次につなげるだけでなく、ヒヤリハットのように事故にはならなかったが、事故を防ぐために行った良い対応などから学んだことも次につなげるというsafety 2という考え方によって高められることを学ぶことができた。医療機器を開発・製造する企業においては様々な状況を想定した細かなリスクマネジメントが必要となり、病院においては他職種との連携、心理的安全性のあるチーム作りが必要となってくるのが分かった。また患者が不利益にならないように十分な情報を提供し、患者と医療者と共同意思決定をすることも患者にとって質が高く安全性の高い医療を提供することにつながることを学んだ。
59	安全な医療を届けるための様々な努力を知ることができました。人は必ずミスをするので、そのミスをいかに減らすか、次に活かすかという話や、メーカーとして危険性を下げることとミスを減らすことの2つのアプローチで改善を行うなど、普段知ることのない内容を学ぶことができました。今回の日機装様のように、MEが企業で働いている環境や実際の状況などを知ることができるテーマを聞いてみたいです。
60	貴重なお話を聞くことができ、将来について考える大切な機会になったと感じます。臓器提供の意思表示について家族と話し合いたいと思いました。
61	臨床工学士の職域拡大について良く分かった。また、臨床工学技士の課題や将来などについて聞いてみたいです。
62	海外の考え方との差やチームや患者たちとの関わり時に相互理解が必要なことなど多くのことを学ぶことができました。今後このような講演があった時に参加したいと思うような講演でした。
63	特に臓器提供のお話が心に残りました。今まで家族とのそういった内容の話は避けてきましたが、これを機に話してみたいと思います。また、自分たちの領域を広げることの重要さも理解することが出来ました。狭い世界で生きるのではなく、自ら沢山の領域に手を伸ばしていきたいと思います。
64	リーダーシップのお話がとても興味深かった。私が目指す組織は「メンバー全員がリーダーシップを発揮する」ものです。社会にでたときに活躍できるように、大学生活の中で多様な経験を積みたいと思います。
65	普段なかなか聞くことができない貴重なお話しでとても勉強になりました。AIと臨床工学技士についてお聞きしたいです。
66	将来、自分が臨床に立つ場面で大事な医療安全の話や企業に就職した場合の話などを聞くことができ、すごく為になりました。また臓器提供についての話も家族と話してみようと思いました。
67	臨床工学技士になるにあたっての心構えと職業域拡大について考えることができた。臨床現場で働くにあたって必要になってくるスキルを具体的に知りたい。
68	山下先生や小松先生がおっしゃっていたsafety2のことが1番印象に残りました。事故が起きてから対策をするのではなく、その前の小さな事故からしっかり対策することによって、高い医療安全が守れると思いました。
69	臓器移植の問題について前から興味があったが、まだまだ需要と供給が取れておらず、新しい制度の検討や人工臓器開発の推進が必要と感じた。
70	臨床工学技士として医療安全にどのようにして関わっていくか考えるととても良い機会となりました。医療の質が上がり医療行為の難易度が高くなっている現在では医師だけで無く他の医療職も医療安全に対する知識をつけ、チーム内で指摘し合う必要があると感じました。今後聞いてみたいテーマは医療経済についてです。
71	どの先生も経験や知識を豊富に1つの講演に詰め込んで下さって、貴重なお話が聞けた。病院、メーカー、また別の道と、将来自分が務める可能性のある場所で働く方たちのお話が聞けることはあまり無いので、参加して良かったと思う。昔と違う今の医療のあり方を学ぶことが出来た。今は医療の知識を増やすよりチームを意識することが重要で、学生として勉強するだけでなく経験を増やし対人関係のスキルも身につける必要がある。また、特に印象に残ったのは奥村先生の紹介された臨床工学技士の方たちだ。新卒で就職という道以外を通してきた方たちの活躍は素晴らしいし、私たちにに向けたメッセージがとても心に響いた。これからの自分の道を考えるのに必要なので、今回の講演をしっかり心に留めておこうと思う。AIの活躍が増え今まで人間が行ってきた作業をAIが行うということが増えているが、そのうえで臨床工学技士の仕事はどうなっていくか、将来の展望などを聞きたい。
72	今後臨床工学技士の仕事がAIに奪われる可能性はあるのか。
73	臨床や企業、臓器移植やリーダーシップについてなど幅広い分野の話を知ることができてとても勉強になった。山下先生（日赤）と奥村先生（日機装）の話は、今後の進路選択にも参考になると思った。臓器移植についての話は、元から興味があったテーマだったため、特に印象に残った。「オブティングアウト」という言葉や脳死臓器提供事例が公開されていることなど今回の講演で初めて知ることでも多かった。リーダーシップについての話は、医療従事者のみならず、どのような職についたとしても、人と関わる上で大切な考え方を知ることができたと思う。
74	臓器提供の現状についてのお話がとても印象に残っているので、さらに詳しく知りたいなと思いました。
75	臨床工学技士についてだけでなく、チーム医療として大事なことや、企業での働き方など臨床工学技士を通して関わるができる多くのことを知ることができました。
76	今回のねごろ医用実学研究会を聞いてまず思ったことは、1,2年のときと比べて内容が全体的に理解できることでした。これは、3年になり授業や実習で学んだ知識の量と、就職するにあたっての病院、企業などの話を少しは頭に入っているからだと思います。特に奥村先生の講演では、後半の臨床工学技士の資格を持った方がどのように製造・販売に関わっているかが興味深かったです。また、雁瀬先生の講演では海外の「臓器提供したくない人だけが意思表示する（オブティングアウト）」という制度にはとても驚きました。現在の日本では、臓器提供の意思表示のハードルが高いため提供率が少ないですが、この制度では臓器提供を拒否する自由も認めつつ、今よりかは多くの提供が見込めるので画期的だと思いました。これらの興味深く感じたことも、前提の内容を理解してこそですし、今この時に様々なお話が聞けて大変勉強になったと思います。